

平成29年度 一相生市立図書館

図書館だより (1月号)



〒678-0053

相生市那波南本町11番1号

電話 0791-23-5151

FAX 0791-22-7164

電子メール info@aioi-city-lib.com

<図書館カレンダー> ■ は、休館日。祝日も開館しています。開館時間 10:00~19:00

(1月)

日	月	火	水	木	金	土
*	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31	*	*	*

(2月)

日	月	火	水	木	金	土
*	*	*	*	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	*	*	*



あけまして おめでとうございます
本年も相生市立図書館をよろしくお願ひいたします



<1月の行事案内> ♪♪♪みんなおいでよ『子ども劇場』♪♪♪

日時	行事内容	場所
6日(土) 10:30~	えいが会 『おじいさんとてぶくろのお家』(10分) こどもにんぎょうげきじょう 『王さまの耳はロバの耳』他(45分)	3階 しょうかく室
21日(日) 11:00~	マジック 『マジックショー』 グループ マジックレインボー	3階 しょうかく室
28日(日) 11:00~	おはなし会 えほん 『アンガスとあひる』ほか おはなし 『おいしいおかゆ』ほか	3階 えほんのへや (大人も入れます。) おはなしのへや (4才以上対象。大人は入れません。) ☆遅れた人は参加できません。

<2階 思索の広場コーナー>

- 特集: 『史伝健康長寿の知恵』1~5巻 第一法規出版刊
希望があれば貸出しますので、1階カウンターで貸出し手続きをお願いします。

<読書会だより>

1月の読書会のご案内と、課題図書をお知らせします。

★日時…1月13日(土) 10:30~12:00

★場所…3階 視聴覚室

課題図書は、ウィリアム・サローヤン/著の『僕の名はアラム』(新潮文庫)です。

★読書会はどなたでも参加でき、当日参加も可能です。課題図書は事前に読んでおいてください。





おすすめ本 (児童書)



<対象*2才~> 『こいぬのくくん』

[P-フ]

ディック・ブルーナ ぶん・え 松岡享子 訳 福音館書店



ある朝、ちいさなちやいろのこいぬ、くくんが窓から外をみていると、だれかが泣いています。それは、ぼくるとんのおくさんでした。そとで遊んでいたむすめのすーきーがいなくなってしまうからです。そのことを聞いたくくんは、さっそくすーきーをさがしにでかけました。そして、くくんは、ともだちのどうぶつたちに女の子を見なかったかききますが、だれもしりません。それでもあきらめずにさがしていると・・・。

“うさこちゃん”シリーズの作者がかいた、こいぬが主人公のおはなし。ちいさな子どもたちもときどきしながら、くくんの活躍を見守ります。ほかに、『くくんとかじ』もあります。

<対象*小学校中学年~> 『こいぬとこねこのおかしな話』

[98-チ]

ヨゼフ・チャペック 作 木村有子 訳 岩波書店

むかし、森の近くの一軒家にこいぬとこねこがすんでいました。ふたりは、なんでも人間と同じようにやりたいと思っていましたが、人間のような指をもった手をしていなかったので、なかなかうまくいきません。あるとき、自分たちの家の床がきたないことに気が付いたふたりは、人間のように床そうじをしようと考えます。なべに水をくんで、せっけんを用意して、さてそうじにとりかかろうとしましたがブラシがありません。そこで、こねこは、かたいブラシのような毛をしたこいぬをブラシ代わりにして床をみがきますが、水でびしゃびしゃになってしまいます。するとこんどは、こいぬが、やわらかいタオルのような毛のこねこで床をふきました。これですっかり、床はきれいになりましたが、今度は、ふたりがよごれてしまい・・・。

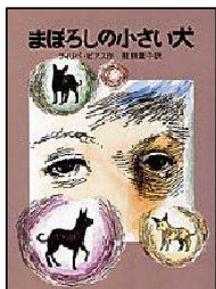
チェコの画家であり作家でもある著者がおくる、こいぬとこねこのゆかいなはなしです。挿絵も著者自身によるもので、80年以上前に描かれたものだとは思えないほどユーモラスなものとなっています。



<対象*小学校高学年~> 『まぼろしの小さい犬』

[93-ピ]

フィリパ・ピアス 作 猪熊葉子 訳 岩波書店



ロンドンの少年ベンは、おじいさんが誕生日に犬をくれる話をしてから、その日を心待ちにしていました。けれども、実際に誕生日に贈られたのは、犬の刺繍の額でした。約束を破られたと思ったベンは、怒りを抑えることができませんでしたが、この絵のことを知るために、おじいさんとおばあさんの家に行きます。おばあさんは大の犬嫌いでしたが、おじいさんは、ウィリーという犬を飼っていて、ベンもその犬をかわいがります。そして、ますます犬がほしくなってきました・・・。

犬を飼いたいあまり、自分の想像の犬を心の中につくってしまい、周囲とうまくコミュニケーションが取れなくなってしまったベン。そしてほんものの犬を手に入れたあと、理想の犬とは違うという現実折り合いをつけるまでの子どもの心理が、作者の深い洞察力により書かれています。

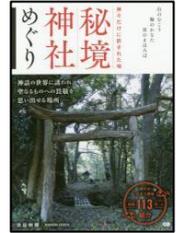


おすすめ本（一般書）



● 『秘境神社めぐり』 渋谷申博・著／G. B. /175

霊山の山頂近くや岬の先端、街のそば、大自然の中…。神々にだけ許された土地・人間には秘められた場所“秘境”に鎮座する全国の神社を写真や所在地の情報とともに紹介。



● 『新幹線各駅停車こだま酒場紀行』 大竹聡・著／ウェッジ／291

酒をこよなく愛する作家が、新幹線こだま号35駅の各駅で下車し、居酒屋、バーの名店を飲み歩く。読んでいると旅に出たくなる、ほろ酔いエッセイ。東海道・山陽新幹線グリーン車搭載誌『ひととき』連載を単行本化。

● 『医者が教える食事術最強の教科書』

牧田善二・著／ダイヤモンド社／498

最新の医療データをもとに、医学的に正しい食べ方を紹介。さらに、肥満、老化、病気がどのように起こるかというメカニズムを説明しながら、血糖値を上手にコントロールする食事術を解説する。長生きの10大ルールも掲載。



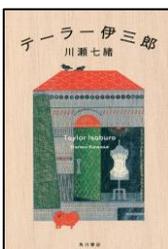
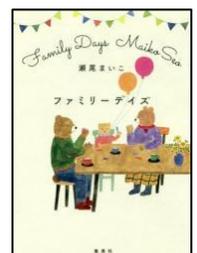
● 『きのう、きょう、あした。』

つばた英子・つばたしゅういち・著／主婦と生活社／590

ひとりになり、時が止まってしまった英子さん。時を動かしたのは「食は命」の哲学と、しゅういちさんの「何でも自分で」の言葉でした。89歳の英子さんが、手間ひまを惜しまない、日々のていねいな暮らしぶりを綴る。

● 『ファミリーデイズ』 瀬尾まいこ・著／集英社／914-セ

中学校教師として生徒たちの成長に感動した日々と、主婦となり、のん気な夫とやんちゃな娘と過ごす今。ふたつの時間が教えてくれた、一番大切なこと…。著者初の育児エッセイ集。



● 『テラー伊三郎』 川瀬七緒・著／KADOKAWA／F-カ

保守的な田舎町の老舗紳士服店に飾られた美しいコルセット“コール・バレネ”。それは、貧困家庭に育つ高校生・海色の人生を変える、色鮮やかな「革命」の始まりだった…。痛快エンタメ。

● 『ビギナーズ・ドラッグ』 喜多喜久・著／講談社／F-キ

中堅製薬会社で事務職を務める恵輔は、治療困難な難病に侵されている千夏に一目惚れする。自ら治療薬を創ればいい、と思い立った恵輔は、同期の研究員・理沙を巻き込み準備を始めるが、周囲の風当たりは強く…。



一般書<新着図書>

書名	著者	出版社	請求記号
わたしの本棚	中江 有里	PHP研究所	019
西郷隆盛53の謎	原口 泉	海竜社	289-サ
農家が教えるもち百珍	農文協//編	農山漁村文化協会	596
運慶のまなざし	金子 啓明	岩波書店	712
森家の討ち入り	諸田 玲子	講談社	F-モ

一般書<12月分 最多貸出図書>

貸出回数	書名	著者名	出版社	請求記号
6	月の満ち欠け	佐藤 正午	岩波書店	F-サ
5	この世の春 上・下	宮部 みゆき	新潮社	F-ミ
5	マスカレード・ナイト	東野 圭吾	集英社	F-ヒ
5	蜜蜂と遠雷	恩田 陸	幻冬舎	F-オ

一般書<12月分 予約の多い図書>

予約件数	書名	著者名	出版社	請求記号
7	いのち	瀬戸内 寂聴	講談社	F-セ
6	ノーマンズランド	誉田 哲也	光文社	F-ホ
5	九十歳。何がめでたい	佐藤 愛子	小学館	914-サ
4	異形のものたち	小池 真理子	KADOKAWA	F-コ

児童書<12月分 最多貸出図書>

貸出回数	書名	著者名	出版社	請求記号
7	てぶくろ	—	福音館書店	P
5	がたんごとんがたんごとん	安西 水丸	福音館書店	P-ア
4	おさるのジョージスキーをする	M. レイ//原作	岩波書店	P
4	こぐまちゃんとどうぶつえん	わかやま けん	こぐま社	P-ワ

※児童書の到着図書は、別紙『平成29年12月新着図書』をご覧ください。



お一人、貸出できる冊数は10冊、貸出期間は2週間です。返却期限をお守りください。延長は1回のみ2週間延長できます。ホームページ・電話で受け付けています。※貸出日の翌日以降から延長できます。予約が入っている本・返却期限をすぎている本の延長はできません。

【ライブラリアン・レター】

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、今年は戌年です。「いぬ」は「滅」「茂」という字が語源だそうですが、「植物が育って実をつけ、それを落として、木を守る（翌年の成長が期待できる）」ということだそうです。

本年も御利用いただきますよう、スタッフ一同よろしくお祈りいたします。

(参考：『干支から見た日本史』 邦光史郎・著 毎日新聞社 請求記号 210)

